31	河野正通	（翻訳）『精神哲学綱要』(1)	『思想』	第92号	1930	697
32		（翻訳）『精神哲学綱要』(2)	『思想』	第93号	1930	
33		（翻訳）『精神哲学綱要』(3)	『思想』	第94号	1930	
34		（翻訳）『精神哲学綱要』(4)	『思想』	第95号	1930	
35	雅川滉（成瀬正勝）	（紹介と検討）グラトコフ作「セメント」寸評	『思想』	第85号	1929	697
36	角野こと	逸名物語絵巻に就いて	『思想』	第104号	1931	697
37	関栄吉	ジムメルの社会概念（上）	『思想』	第28号	1924	697
38		ジムメルの社会概念（下）	『思想』	第29号	1924	
39		ヘーゲルの歴史哲学	『思想』	第34号	1924	
40		社会結合形式の進化	『思想』	第45号	1925	
41	関口親	オノレ・ド・バルザック―新バルザック集の序―	『思想』	第159号	1935	697
42	岩崎真澄	能楽に於ける仮面使用の意義	『思想』	第26号	1923	697
43		能面の始源	『思想』	第31号	1924	
44	岩村忍	民族政策についての若干の原理的考察	『思想』	第234号	1941	697
45		亜欧大陸諸民族活動の方向についての史的考察	『思想』	第241号	1942	
46	鬼頭英一	ドイツ哲学の現勢	『思想』	第125号	1932	697
47	菊盛英史	エンゲルスの未発表書簡（バルザックとリアリズム）	『思想』	第122号	1932	697
48	菊澤季生	民族の問題と言語の問題	『思想』	第179号	1937	697
49	吉田十四雄	馬鈴薯談義	『思想』	第265号	1944	697
50	吉田泰司	（随想随筆）関係	『思想』	第84号	1929	697
51	橘高倫一	愚麟山房雑記	『思想』	第186号	1937	697
52	宮崎力蔵	感想二つ三つ	『思想』	第72号	1927	697
53	宮本正尊	無記と空と中道	『思想』	第243号	1942	697
54	玉井茂	（紹介と検討）フォイエルバッハと独逸古典哲学の終結	『思想』	第101号	1921	697
55	玉野光男	渦をめぐる寺田先生の思出	『思想』	第166号	1936	697
56	熊澤復六	絵画様式としての静物画	『思想』	第107号	1931	697
57	源豊宗	朝鮮の仏像彫刻	『思想』	第81号	1928	697
58	古川哲史	鍋島論語に於ける「過度」と「中庸」	『思想』	第175号	1936	697
59		現代フランスに於ける自殺論の方向	『思想』	第176号	1937	
60		ベルグソン道徳論と社会学	『思想』	第177号	1937	
61		自然と社会と道徳―ジャン・ジャック・ルソーにおける「道徳」の位置と出発点―	『思想』	第178号	1937	
62		海外哲学思潮：デカルト哲学体系に於ける「暫定的道徳」の意義―三つの見解	『思想』	第181号	1937	
63		一応召者の感想―葉隠の研究１―	『思想』	第196号	1938	
64		道の思想（上）―葉隠の研究２―	『思想』	第202号	1939	
65		武士道	『思想』	第203号	1939	
66		道の思想（下）―葉隠の研究３―	『思想』	第204号	1939	
67		自殺の日本的性格―その在り場所について―	『思想』	第206号	1939	
68		「本居宣長の老荘哲学批判」考	『思想』	第210号	1939	
69		商人心―三井高房の『町人考見録』をめぐつて―	『思想』	第230号	1941	
70		武士の土着	『思想』	第238号	1942	
71		『葉隠』における狂気	『思想』	第240号	1942	
72		『武道初心集』に於ける前進的と懐古的	『思想』	第243号	1942	
73		大道寺友山について(1)	『思想』	第246号	1942	
74		大道寺友山について(2)	『思想』	第247号	1942	
75		二つの『武道初心集』―大道寺友山の『武道初心集』と松代藩の『武道初心集』―	『思想』	第254号	1943	
76		『常山紀談』の一考察	『思想』	第264号	1944	
77		日本の聖人	『思想』	第268号	1945	
78	古谷郁郎	18世紀の英国に於ける理神論の出現に対する教会防衛	『思想』	第182号	1937	697
79		ポール・ロワイヤル改革の意義	『思想』	第194号	1938	
80		アメリカに於けるピューリタニズム	『思想』	第212号	1940	
81		英国教会と英国的性格	『思想』	第230号	1941	